

北海道湿地コンソーシアム 北海道は湿地の宝庫、声を高めるために

2008年に発足した日本湿地学会は、湿地に関する自然科学と社会科学の全てを包含し、大学や研究機関の研究者だけでなく、行政、企業、NGOなど全ての湿地関係者に開かれたとても面白い学会です。2018年には、テーマ別の活動を行う「部会」を設置できるようになり、その第一号として「北海道湿地コンソーシアム (HWC)」が発足しました。HWCには、長らく湿地研究のサロンとして機能しているウェットランドセミナーの運営委員を中心に、しめっちネット、北海道ラムサールネットワーク、釧路国際ウェットランドセンターなどの湿地系ネットワーク組織が参画しています。HWCは、湿地の宝庫である北海道で「湿地の主流化」を目指すべく連携と協働を進め、2020年度にはオール北海道の湿地会議を開催したいと思っています。

そのほかのご報告

■第2回総会開催

4月15日、宮島沼水鳥・湿地センターにて第2回総会を開催し、2017年度事業報告・2018年度事業計画等が承認されました。

■助成金&ご寄付

今年度は、昨年に引き続き損保ジャパン日本興亜株式会社「SAVE JAPAN プロジェクト」

北海道コカ・コーラボトリング・北海道・北海道環境財団「北海道e-水プロジェクト」そして新たに環境再生保全機構「地球環境基金」の助成先として採択されました。

「北海道e-水プロジェクト」においては、4月27日にキックオフミーティングに参加、11月16日には報告会とe-水フォーラムにおいて、活動報告を行いました。

■ご寄付

認定NPO法人ランナースポーツ北海道さまからご寄付をいただきました。ありがとうございました。

■インターネットテレビでしめっち紹介！

インターネットテレビ「のっぽろ7丁目放送局」で、偶数月第3水曜日に上戸蘭堂が湿地を好き勝手に語ります。こちらで見れます→ <http://nopporo7tv.com/>



しめっち ネット 石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク

▲ 札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園 201号(北海道NPOサポートセンター内)
☎ 011-200-0973 🌐 <http://ishikarigawa-net.com/> ✉ ishikari.wetland@gmail.com

かつて石狩川流域に広がっていた広大な湿地は農地開発やインフラ整備によってほとんどが失われ、それとともに豊かな自然環境や生活文化も姿を消しました。現在残されたわずかな湿地などの環境は各地域の市民団体などが保全・利活用の活動を進めていますが、常に失われる危機に面しています。そこで、たくさんの方に湿地の魅力と価値と現状を伝えるため、各地の団体がつながって力を集め、湿地の未来を作っていくと結成したのがこのネットワークです。

私たちは、環境の保全・再生・研究や、持続的な利活用の推進を行い、貴重な文化や自然環境を未来に残すために活動を行っています。また、湿地と地域社会のパートナーシップを作り、育てることで地域の活性化と湿地・人が共生する地域社会の形成を目指しています。

仲間募集！一緒に活動してくれる仲間や活動への支援を募集しています。身近な自然環境について、ともに考え、行動しませんか？

● 正会員

当ネットワークの趣旨に賛同し、運営に協力する意思があり、石狩川流域の湿原・水辺・海岸の環境保全・動植物保護に何らかの形で関与する団体。ネットワークの運営に参加することができます。

年会費 5,000円

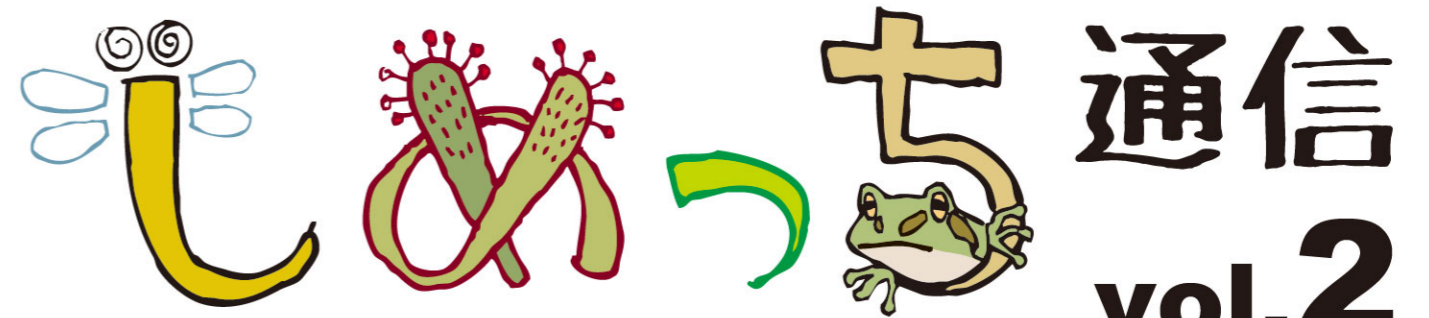
● 賛助会員

当ネットワークの趣旨に賛同し、財政面で協力する意思のある個人や団体。メーリングリストでネットワークの情報が提供されます。

年会費 5,000円(団体) 1,000円(個人)

● サポーター

当ネットワークの趣旨に賛同し、活動に興味のある方にご登録いただけます。ネットワークのイベントや情報をお届けします。



石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク The Shimecchi Report ニュースレター



消えゆく生き物たち 篠路福移湿原を守りたい！

皆さんは、大都会の札幌市の片隅に、湿原が残されていることをご存知ですか？

篠路福移湿原は、札幌市の北部に残存する湿原です。開拓期以前に石狩平野に広がっていた大湿原の一部が今も息づいているこの湿原には、カラカネイトトンボという名の小さなトンボが息しています。カラカネイトトンボは、成熟すると金属の光沢を持った緑色になるのが特徴で、『湿原の女神』ともいわれています。

生物が暮らしていくためには、それぞれの種類毎に適した生息場が必要であり、湿原がなければ息できない種類がたくさんいます。カラカネイトトンボもその一つです。

札幌近郊では篠路福移湿原にしか息していないことから、篠路福移湿原が失われれば、札幌圏からカラカネイトトンボが姿を消すこととなってしまいます。

しかし、現在、篠路福移湿原では、残土受け入れ業者による埋め立てが行われています。『認定NPO法人カラカネイトトンボを守る会あいあい自然ネットワーク』では、これを抑止するためトラスト運動を行っていますが、それでも不当に埋め立てられているのが現状です。この惨状を止めるためには、少しでも多くの人々に、札幌に残された貴重な湿原の価値を知っていただくことが重要です。皆さんのご協力をお願いいたします。(石橋)



埋め立てられる福移湿原

しめっちカフェ

ちょっと湿地の話聞いて行かないか？ 湿地の秘密、湿地のおもしろさを古民家で学ぶ。

私たちが保全・利活用を進めていきたい湿地のことは、多くの人にはあまり関心のないことでしょう。少し関心があっても湿地に行く機会を作るのは容易ではないと思います。そんな人にも湿地のことを知ってほしい、しめっちの仲間を増やしたい想いから始めたのがしめっちカフェです。今年度は計6回、すすきのの古民家ギャラリー鴨々堂で開催しました。



当ネットワーク各団体の活動紹介のほか、研究者や実践者を招いてのカフェを開催しました。札幌市立大学矢部和夫先生から「幻の石狩湿原を取り戻す～平岡公園人工湿地と幌向湿原再生地の事例～」として北海道の湿地の植生の特性と湿地の再生事例についてご紹介いただき、現在取り組んでいる湿地再生の意義や手法について学ぶ機会となりました。北海道大学中村太士先生から「湿地を活かして洪水に備える～グリーンインフラ～」として、豪雨災害が頻発する昨今、湿地や旧川・三日月湖などを防災利用して活用する必要性と日常的な湿地の生態系サービス活用についてお話いただき、今後の湿地再生と保全の在り方やグリーンインフラとなる湿地管理の担い手としての必要性等について考えました。NPO法人ナショナルトラスト チコロナイ貝澤耕一氏から「国土開発で失われた湿地とアイヌ文化を支える自然環境を考える～二風谷ダム現場から」として、アイヌ文化からの環境保全の話、そして二風谷ダム建設における行政との対立の経過と結果そして未来に向けてのお考えなど聞かせていただき、今後の湿地保全を進める上での考え方を学ばせていただきました。

各回とも、古民家の暖かい雰囲気の中で、20名ほどの参加者とともに、湿地の魅力や課題、利活用、そして今後の在り方について学びながら、美味しく楽しい時間を過ごしました。

しめっちフェスタ

学ぶだけじゃない。湿原を楽しもう

石狩川流域の湿地の魅力や湿地の現場で発信したい！ということで、宮島沼で毎年開催されている「宮島沼カントリーフェス」と一緒に、しめっちネット主催の「しめっちフェスタ」を同時開催しました。特設ブースではポスター等の展示のほか、海辺の素材を使ったクラフトづくり教室、初登場となったマガンの編んだもんだらの販売、美唄湿原産ツルコケモモの配布などを行い、終始お客さんと賑わっていました。また、特別企画として、嵯峨治彦さんによる馬頭琴のステージを開催し、湿地と音楽のハーモニーに会場中が魅了されました。宮島沼と石狩海岸で活動する子どもたちである「マガレンジャー」と「いしかりUMIBEキッズ」の交流もあり、楽しい一日となりました。



エンタメからの湿原発信！ しめっちムービー

私たちは今年度の普及啓発事業として、湿地の今を伝える「しめっちムービー第3弾『しめっぽい話、有り☑ ～湿地を知ろう！～』」を作成しました。関心の無い物事に興味を持ってもらうというのは本当に難しいものですが、それでも私たちは湿地の現状を伝えていかなければなりません。検討を重ねた末、私たちは語りのプロであるお笑い芸人が湿地を学ぶ動画を撮影することに決め、出演及び脚本・監督として、よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属で北海道出身の芸人「アップダウン」のお二人に協力を依頼したほか、解説には宮島沼水鳥・湿地センターの牛山克己さんを迎え、笑って楽しめる学びの動画を作ることができました。また、エンディングにはアップダウン竹森巧さんの「北海道一湿地ラップバージョン」を採用し、歌って楽しむこともできるエンターテインメント作品となっています。ぜひ一度、ご覧ください！



合同湿地探索会 知られざる湿地の姿を明らかに。

石狩川流域には、既存の保全団体による保全活動の対象になっていなかったり、学術的な研究の対象になっていなかったりする湿地が、随所に残されています。当ネットワークによる探索で実態を明らかにする合同探索会を、2017年度に続いて本年度も開催しました。

2018年度は、江別市・石狩市・当別町・新篠津村の合計5か所の湿地を探索しました。昨年に続いて田代谷湿原(江別市)の探索を御指導いただいた札幌市立大学の矢部和夫教授に加えて、7月27日の新篠津村での合同探索会では北海道大学総合博物館大原昌宏副館長・教授が水生昆虫の探索に加わり、同日の蕨岱東部湿原(当別町)ではカラカネイトトンボが見つかるなど、植物主体の探索から昆虫などについても発見があったことが、本年度の合同探索会の最大の成果です。

また、カラカネイトトンボを守る会が保全活動に取り組んでいる札幌市の篠路福移湿原で同会が7月8日に主宰した探索会を、当ネットワークの公開見学会と位置付けて取り組みました。残土受入業者による埋め立てが進むこの湿原を、来年度もしっかり見届けていきたいと考えております。

来年度も合同探索会の取り組みを継続し、石狩川流域における湿地のデータベースの構築・拡充へと繋げていく予定です。



2018年度探索会	日付	探索地	確認内容
	5月16日	石狩川河口部湿原(石狩市)	現況確認
	6月25日	世田谷湿原(江別市)	ワタスゲの再発見
	7月8日	篠路福移湿原(札幌市)	埋め立て状況の確認
	7月23日	高橋ビートモス工業第二期採掘場(新篠津村)	昆虫や植物の確認
	7月23日	蕨岱東部湿原(当別町)	カラカネイトトンボの確認
	8月27日	東野幌湿原(江別市)	ヒメタヌキモの確認

チタラペづくり

湿原から生まれる生活文化を体験する

湿地の恵みを体験するワークショップは、昨年に引き続きアイヌ文化に伝わる「ガマのゴザ(チタラペ)づくり」を行いました。

湿地の魅力は希少な動植物の生息場所であることだけでなく、湿地とともに暮らした人たちの文化にもあります。事前の準備として、9月29日に6名の有志で当別自然再生地にてヒメガマの採集を行い(今年は昨年あったガマの群落が消失したためヒメガマを使いました)、雪印種苗(株)さんのビニールハウス内で乾燥させました。

ゴザづくりは、10月21日に、子ども・学生4名を含む19名の方が参加、当別町白樺コミュニティセンターに集合し、ガマ採取地を視察に行き、会場に戻ってアイヌ文化活動アドバイザーである貝澤美和子氏、貝澤珠美氏の指導のもとゴザをつくるための編み機づくり、その後は作った編み機でゴザづくりを楽しみました(昨年たいへんだったので、少し小さいものにしました)。

かつてそこら中にあったガマなどが群生する湿地が少なくなったことや、自然を活用していたアイヌ文化のこと、道具作りからものづくりをする楽しさを感じてもらえる活動となりました。来年はスゲによるしめ縄づくりに挑戦したいと考えています。



地域の自然を学びあう
いしかり UMIBE キッズクラブ × マガレンジャー 宮島沼自然戦隊

宮島沼自然戦隊マガレンジャーの皆さんと2回、合同で活動を行いました。8月18日、石狩市望来地区にある厚田油田を見学し、化石採取や海遊びを楽しみました。翌週は宮島沼カントリーフェス2018に参加しました。お揃いのTシャツをもらって気分上々！宮島沼を案内してもらい、ヨシ紙作り体験などをしました。石狩海岸以外の自然を体験する良い機会となりました。また一緒に遊ぼうね！(いしかり海辺ファンクラブ 石山優子)